

0歳児

0歳児の発達

2か月頃

- ・快・不快を区別するようになったり、甘えるような泣き方でぐずったりしますが、あやすと大人の目や口のあたりをよく見るようになります。
- ・見るより聞く方が得意で、いつも声をかけてくれる人の声を聞き分けられるようになります。

4か月頃

- ・大人にあやされると声を出して笑い、全身の動きや手の開きが活発になっていきます。
- ・仰向けの姿勢で、音がする玩具やゆらゆらするものをじっと見たり、目で追いかけたりします。5か月頃からはおもちゃに手を伸ばします。

8か月頃

- ・運動面での発達が著しい時です。腹ばいでお腹をつけてぐるぐる回ったり、目の前にあるものに向かって進もうとしたりします。
- ・外の世界への興味・関心がでてきて、人見知りなどの不安が生まれます。また、期待を持ち、いないいないばあ遊びやくすぐり遊びを喜ぶようになってきます。

10か月頃

- ・“もうすぐ〇〇だぞ”とわくわくどきどきするなど、大人や外の世界への期待の心が高まってきます。
- ・自分で食べたい、あっちへ行きたいなど指差して要求を伝えようとします。

こんな遊びをいっぱいしよう

- 周りの物を見たり聞いたりしましょう。
 - ・ 吊り玩具、音の出る玩具、語りかけや歌いかけなど
- 指先を使った遊びを楽しみましょう。
 - ・ 玩具を握ったり、ひっぱったり、つまんだりして遊ぶ。
 - ・ ボールを転がして遊ぶ。
 - ・ 物を出し入れしたり落としたりする。
- うつ伏せやはいはい、つかまり立ちなどいろんな姿勢で遊びましょう。
- 名前をよんだり、「いないいないばあ」をしたり、お家の人とふれあって遊びましょう。

4か月～
6か月

目覚めの時間を大切に ～気持ちよく飲み、眠り、遊べる環境を～



目が合うとうれしいな



これは何かな？なめてみようかな

生活リズムができてきて目覚めている時間が増えてきます。身近な人の顔や声がかかるようになり、自分から声を出したり、あやしてもらおうと笑ったりして喜ぶ姿がみられます。また、寝がえりや腹ばいなど全身の動きが活発になってきます。手足をさかんに動かすようになり、物に触って確かめて自分から人や物に向かおうとします。

こんなことあるある！



起きている時間が増えてきたけど
どう関わったらいいの？



赤ちゃんに名前を呼んだり話しか
けたりしてもわかるのかな？



やさしく抱いて飲ませても
らうと心地いいな。



目を見てお話ししてくれる
とうれしいな♪

ゆったりとした雰囲気の中で

見る、なめる、触れる、握る等の感触を味わい確かめています。手を伸ばしつかもうとする気持ちが持てるように目の前で玩具を見せながらかわったり、低い姿勢であやして遊んだりしましょう。腹ばいやお座りなど、姿勢をかえて遊ぶ機会もつくりましょう。目が合ったときに優しい気持ちが生まれます。ゆったりとした雰囲気の中で視線を合わせて語りかけましょう。



保育者より

7か月～
9か月

共感しあう心地よさをたっぷり



引っばったら音が聞こえたよ

腹ばいでおなかをつけてぐるぐるまわったり、目の前にあるものに向かって進もうとしたりします。なかなかうまくいかない時も、大好きなおうちの人に支えてもらうことで「やってほしい」「やりたい」という気持ちを育てています。引っ張ったら音になる等の発見をし、手応えを感じると同時に、「またなるかな」という期待が芽生えて、繰り返し遊ぶようになります。

こんなことあるある!



そばにいないと機嫌が悪くなったりすぐに泣いたりしてぐずります。



うつ伏せの姿勢で遊ばせようとすると嫌がります。



お母さんの顔が分かるようになったから、知らない人を見ると不安になるんだ。



お母さんも同じ目線や姿勢で遊んでくれるとうれしいな。

安心して過ごすことが大事ですね

人見知りの時期で泣いたり後追いをしたりしますが、大好きな大人がそばにいることで安心して過ごすことができます。いろいろな場面で子どもの気持ちになって「〇〇だね」と共感したり、同じ姿勢や目線になって一緒にやってみたりすることでかかわってもらい喜びを感じられるようになります。



保育者より

10か月～
11か月頃

自分で食べて、自分の行きたいところに行ける機会を大切に



はいはいやずり這いで自分で動けることがうれしいな

はいはいで移動できるようになり、いろいろな場所を探索したり平坦でない段差や斜面にも挑戦したりするようになります。

また「もうすぐ〇〇だぞ」とわくわく、ドキドキする等、大人や外への世界への期待の心が高まってきます。あやしてもらって遊ぶうち、自分で「ばあ」として見せたり、追いかけてもらうことに期待したりする姿がみられるようになってきます。

こんなことあるある!



汚したりこぼしたりするのに自分で食べたがります。



目を離したすきにどこかへ行ったり、つかまりだちをしったりすることが増えてきました。



手でさわりながら感触を確かめているよ。自分で食べられるのもうれしいな。



今まで見たかったものやさわりたいかかったものに、自分からかわりに行けてうれしいな。

安心して過ごす



保育者より

「あれなかな」と手を伸ばしてみたり物を触ったり五感を使って遊べる環境を作りましょう。

食べる量や嗜好には個人差が見られますが、自分で食べられる喜びが感じられるように、自分で持って食べられる大きさや厚さにしたり、「もぐもぐ」「ごっくん」と噛むことや飲み込むことを知らせたりしていきましょう。